

第1回奈良県立病院地方独立行政法人評価委員会 議事要旨

- 1 日時 平成29年5月9日(火)
- 2 場所 奈良県文化会館 集会室A B
- 3 出席者 【委員】新川委員長、上野委員、浮舟委員、平井委員、小山委員、竹田委員、
竹中委員、豊岡委員、富田委員
【病院機構】榊理事長、上田副理事長 他
【事務局】林医療政策部長 他

4 会議要旨 議 事

- (1) 地方独立行政法人法第26条の規定に基づく中期計画の変更について
中期計画の変更については了承。細かな修正が必要であれば評価委員会での意見を基に行う。最終調整は委員長に一任するものとする。

【主な意見】

○中期計画5ヵ年の収支について

- ・平成28年度の決算見込みを示してもらっているが、予算と決算の比較が必要。
- ・中期計画に平成29年度単年度の数字が出ていない。中期計画において5ヵ年の合計ではなく、病院毎に単年毎の数値も提示する事が必要。
- ・中期計画において、平成29年2月作成の改革プランからの変動について示して欲しい。改革プランと決算を比べて数値の増差について時点修正が必要。その修正情報を平成29年度の見込みにも反映させるべき。
- ・将来の取組として具体的に示している効果を収支計画に反映させると、この収支計画がどうなるのか検証が必要。
- ・中期計画に記載している材料費削減について、後発医薬品を増やしたり、高額医薬品を使用しても利益には繋がりにくい。
- ・経費等がかなり高い様に感じる。経費を落とす取組はないのか。経費の方が人件費に比べて落としやすいのではないのか。

○新総合医療センターの稼働について

- ・新総合医療センターオープンに向け職員をどのように増やしていくのかが見えない。オープンした時に急に忙しくなってもモチベーションが保てる様に工夫が必要。
- ・新総合医療センター開設に向け、計画的な人員増に伴う人件費分を切り出して見えるように示してほしい。
- ・新総合医療センターが軌道に乗るまでの見通しをキャッシュフローも含め、きっちりした見通しを立てる必要がある。診療科、各部門のレベルまで、しっかり計画を立てること。

○新総合医療センターの設備投資について

- ・新総合医療センターの設備投資額は適正か。その費用圧縮等の検討はどうなっているのか。
- ・今後、医療環境、患者動向が大きく変わった時に新しく投資した設備をどうするのか考えておくことが必要。

○新総合医療センター開院後の見通しについて

- ・改革プランの決算の数字を見ると、新総合医療センターが稼働する平成31年度以降で右肩上がりになってくる。収入がこんなに上がるのか。見込みが甘くないか。もう少し具体的に厳しめに見るべき。
- ・新総合医療センターは医療計画に合った計画なのか。この医療圏での分担はどうなっているのか。それほど患者需要があるのか。奈良は大阪のベッドタウンで京都とも近い。高齢化が進むと住民は地域に戻ってくるが若いうちは戻ってこない。そう考えると少々多いように感じる。
- ・県立病院として、医大や地域の医療機関とも連携し、地域で頼りになる病院となるよう広報もし、認知度を高めること。県立病院としての役割をきっちり整理してほしい。

○職員の勤務体制、労務管理について

- ・国立病院機構の給与体系を医師のみに適用するのはなぜか。全職員に適用しないのか。
- ・診療部長と面談しながら、医師の労務管理に取り組んでいるとのことだが、診療部長の反応はどうか、実現可能性はあるのか。1ヶ月当たり超過勤務が80時間を越える医師が多い。
- ・医師が個々に対応するのではなく、チームとして対応することが必要。超勤が起こるのはチームの責任という認識を持たなければならない。チームで対応しないと超勤は減らない。

